

研究公開用文書

研究名：

10mm 未満膵嚢胞性病変の多施設前向き研究

研究の概要：

日常遭遇することの多い 10mm 未満の膵嚢胞性病変に対する質的診断は容易ではなく、それらがどのくらいの期間や頻度で、どのような病変に進展していくのかといった病的意義については判然としていない。

近年、IPMNだけではなく、膵嚢胞性病変も膵癌の高危険群とする国内の単施設からの報告がみられ (Radiology 2010)、膵癌診療ガイドライン2013では膵癌高危険因子のひとつとして重要視されている (図)。しかし、10mm未満の小嚢胞性病変もすべて厳重な管理をすべきなのかについてはエビデンスがないため、言及されていない。

一方、米国消化器学会 (AGA) が今年3月に公表した膵嚢胞の診療ガイドラインで、無症候性の腫瘍性膵嚢胞は、5年間変化がなければ経過観察を打ち切ることが推奨された (Gastroenterology 2015)。その妥当性を検証するためには、5年以上の前向き追跡期間、多施設、多数例での検討による本邦からの新たなエビデンスの創出が必要である。

高齢化社会を迎える本邦で 10mm 未満膵嚢胞性病変の病的意義を明らかにする研究は、医療経済的側面からも重要な意義を有している。

研究対象：

画像診断で 10 mm以下の膵嚢胞が指摘された患者さん

- (1) 症例数 横浜市大病院では年間 10-20 例 (国内全体では 1000 例登録予定)
- (2) 対象年齢及び性別など：年齢制限はなし

研究責任者：

横浜市立大学附属病院

所属：内視鏡センター 教授 氏名：窪田賢輔

研究実施期間：

許可日 ~ 平成 35 年 6 月 30 日

連絡先：

患者さんもしくはご家族の方等がこの研究へのご参加を希望されない場合は、以下の連絡先までご連絡下さい。

拒否された場合、患者さんにとって不利益になることは一切ございません。また、この研究のために患者さんの負担や危険が増えることはございません。

横浜市立大学附属病院

所属：内視鏡センター 教授 氏名：窪田賢輔

〒：236-0004 住所：横浜市金沢区福浦 3-9

電話：045-787-2800 【代表】